

自分だけが周囲と違う世界を見てるってことにはあまり興味なかった  
ただどうしても「これら」が見えていない人間はどこか信用できなかった

無防備すぎる

弱すぎる

身を守る術を持たず、無様に食われていくだけの存在

全てが俺の妄想なのだろうとは思っていたが、無理なものは無理だった

俺はいつからか彼女に話しかけるようになった

彼女も「これら」が見えているようだったから

きっと彼女は俺と無関係ではない

仲間を求める気持ちだったのか、彼女への単純な興味だったのか、

今ではもう、その時の気持ちは思い出せない

ただの独り言を繰り返した

彼女は徹底的に俺を無視していたが、俺のことが見えていないわけではなかった  
俺と絶対に視線を合わせないようにしていたのだから